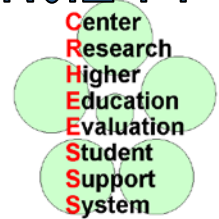


週刊センターニュース

No.244



第244号(2009年2月2日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

○●○ 第6回大学教育セミナーのご案内 ○●○

テーマ:「FD・ICT教育推進室が進めている学士課程教育の改革に伴うFD推進と教育実施・支援モデルの構築(最終報告)」

日時: 2月14日(土) 13:00~17:45

会場: ホテル金沢 ダイヤモンドルーム(2F)

主催: 大学教育開発・支援センター

共催: 総合メディア基盤センター、学生部 後援: 大学コンソーシアム石川

プログラム

- 13:00-13:10 開会の辞・趣旨説明
- 13:10-14:10 FD・ICT教育推進室活動紹介(その1)
FD/SD・ICT教育支援部門
- 14:20-16:20 FD・ICT教育推進室活動紹介(その2)
教材作成部門、ICTシステム開発・管理部門
- 16:30-17:30 トークセッション ICT活用は本当にFDに有効か?
- 17:30-17:40 学生作品コンテスト表彰
- 17:40-17:45 閉会の辞

【問合せ先】FD・ICT教育推進室(担当: 森祥寛)

TEL: 076-264-5817, e-mail: it-sien@el.kanazawa-u.ac.jp

○●○ 平成20年度第1回教育研究支援力向上のためのSD研修会の開催 ○●○

学生課職員が主な対象となっておりますが、教員も自由に参加できます。

日時 平成21年2月9日(月) 15:00~17:00

会場 事務局4階第3会議室

対象者 学生部及び各地区事務部学生課職員を中心に全職員

プログラム(司会: 川本 悟 学務課副課長)

15:00-15:10 開会挨拶...宮坂一雄 学生部長

15:10-15:35 報告①『『全国学生指導研修会』参加報告』(越野衛一・入試課副課長)

15:40-16:05 報告②「窓口業務について—金沢大学主任研修報告—」(敷中待子・学務課総務係主任)

16:10-16:35 報告③『『教務事務研修会』等参加報告』(日水栄・学務課教務係係員)

16:35-17:00 意見交換「報告者と参加者によるディスカッション」

○●○ 現代GPフォーラム(第3回HiRCフォーラム)参加報告 ○●○

2009年1月30日、青山学院大学で現代GPフォーラム(第3回HiRCフォーラム)が開催された。フォーラムのテーマは「ICT活用教育を推進するFD/SDプログラム」で、独立行政法人メディア教育開発センターの清水康敬氏の基調講演の後、青山学院大学ヒューマン・イノベーション研究センター(HiRC)の活動報告および2件の個別活動報告が行われた。本稿では印象深かった2件の個別報告を紹介する。

(1) ICT活用の“気づき”を促す3分間コンテンツ

佐藤万知氏(HiRC)より、教員に ICT 活用教育への興味と関心をもたせることを目的とした e-Learning 教材シリーズの紹介がなされた。その内容は、新任の大学教員であるマティが ICT に明るい友人かんなの助けを借りて成長していく奮闘記である。

買い手の消費プロセスとして知られているAIDMAの概念に沿って作成されており、わずか 3 分間でひとつの物語を届けられること(Attention)、親しみのあるイラストで描かれたキャラクターを用いていること(Interest)、簡単なICT活用で授業に変化をもたらすこと(Desire)、新任教員の苦労を追体験すること(Memory)、成功に導くプランが示されていること(Action)などの工夫が盛り込まれていた。Desireで述べた“授業に変化”では「教員が考えるよい授業像」に関する事前調査に基づいており^(a)、全体的に綿密な作りとなっていた。

発表では ICT に「慣れている人」と「慣れていない人」との対比に言及する場面があり、「慣れている人は ICT を道具として捉えているので、効果的に使うためのテクニックを望んでいる。一方、慣れていない人は ICT を道具として捉えていないので、自分で制御できない機械に不安や反発を感じてしまう」との言葉に強く共感した。

アカンサスポータル相談に対する著者の個別訪問でも、慣れた先生は「WebClassの『解説』に授業専用のホームページを設置できる^(b)」などの使いこなすためのテクニックに関心が向くが、慣れていない先生からは「いろいろできるみたいだけど、難しそうだから・・・」との不安感を示す印象が強い。もちろん、敬遠しがちな先生が「実はすごく簡単に使える」という発見や「とても集計が簡単になった」などのメリットを感じる瞬間に立ちあえた時はとても嬉しい。今回の発表を拝聴しながら、改めてICT活用に対する不安や反発の解消に向けた努力の重要性を感じた。

(a) 佐藤万知・松田岳士「授業におけるICTの活用方法の提案のための授業像分析」 日本教育工学会 第24回全国大会。

(b) index.htmlやリンク先のファイル・フォルダ群を全て選択し、zip形式で圧縮した後、そのzipファイルを「解説」の変換ファイルでアップロードすると、Webサイトのように利用できる。

(2) 伝わる！ つながる！ コミュニケーションシリーズの開発

大学には学習を妨げる4つのバリア(障壁)が存在するといわれている(下表)。バリアに影響される人達とのコミュニケーションを促進するためには、そのバリアについて正しく理解し、適切な対応をとらねばならない。こうした観点から、松本喜以子氏(HiRC)はバリアについて学ぶ大学教職員向けの e-Learning 教材の開発を行っている。

物理的バリア	物理的な距離や施設に起因する障壁。「キャンパスが離れていたり、実験設備がないために希望の授業が受けられない」など。
制度的バリア	学部やカリキュラムに起因する障壁。希望受講科目が「特定の学部のみで開講している」や「受講可能な学生に制限がある」など。
心理的バリア	対人関係に起因する障壁。「留学生がマイノリティーであるために学校になじみにくい」や「男女比の偏りで疎外感を感じる」など。
情報バリア	情報の取得に起因する障壁。「点字のない張り紙を掲示されても、重度の視覚障害をもつ人は情報を入手できない」など。

本発表では、情報バリアのひとつである「色覚異常」が取り上げられ、

- ・男性では 20 人に 1 人の割合でいる (→クラスに 1 人はいると考えられる)
- ・色覚異常の人の見え方 (→強調のつもりの赤が黒と同じに見える人もいる)
- ・円グラフでの色の組み合わせ (→ むしろ模様で分ける方がいい)

といった知識と留意点を学ぶ過程が紹介された。発表後、会場から色覚に関する自身の取り組みや留意点に関する感想が交わされ、バリアフリーに対する高い関心が見受けられた。

今後の開発には「やさしい日本語^(c)」、「メールコミュニケーション」などが予定されるとのこと。現在、本学ではアカンサスポータル上で「一次救命処置とAEDの基礎知識」について気軽に学習できるようになっているが、教職員による学習支援の質的向上という観点からもバリアフリーに関する学習も不可欠となるであろう。

(c) 「やさしい日本語」とは、日本語に不慣れな外国人でも理解しやすい日本語のことで、災害時などに状況を把握し、適切な行動をとれるなどの理由から重要視されている。